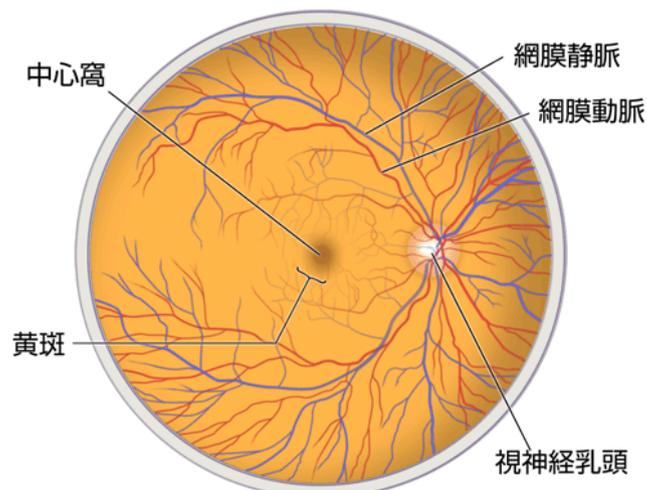


眼底検査の必要性

●眼底カメラについて

眼底の色などの状態を見るために普通のカラー写真のようにフラッシュさせて撮影するのがカラーで撮影できる眼底カメラです。

この写真で視神経が集まっている視神経乳頭や物を見るときに中心となる黄斑部、さらにその中央部にある中心窩、周りの網膜部分などの状態を確認できます。



© Japanese Ophthalmological Society

●眼底写真が必要な疾患

撮影は視神経・網膜血管の異常、網膜剥離、ぶどう膜炎、白内障などあらゆる眼の疾患に行われます。また高血圧、糖尿病、膠原病など、これから

眼に何らかの変化が出てくる可能性のある患者さんにとっても重要な検査です。何故なら、これらの写真はそのまま眼科以外の先生やスタッフにもわかりやすく伝え、理解してもらうことができるからです。もちろん患者様自身にも目で見て理解をしてもらいながら説明することも可能になります。

写真に用いて可能な限り眼底疾患を早期発見することは、将来の自分の為にもなりますので、定期的な検査をされることも大切です。

●眼底検査時の点眼薬

眼底検査をされた方の中には、写真撮影の前に目薬を差したことがある方もいらっしゃると思います。ちょっと沁みるその点眼薬は、点眼することで瞳の中心の黒い穴の部分（瞳孔）を広げて、眼底をよりはっきり見る事が出来るようになります。

瞳孔を広げずに撮影をすると、黄斑部分は陰になり、しっかりと症状を確認することができません。また、カメラのフラッシュによる反応によって瞳孔は狭くなり、撮り直すと縮瞳したままになるため、細部の撮影はさらに難しくなります。反対の眼を撮影するだけでもその影響は出るため、精密検査の際には点眼を用いることが望ましいでしょう。

ただ、点眼して瞳孔を広げますと、光の調整が出来なくなるため、光をいつも以上に眩しく感じます。もし検査を希望される方や、散瞳検査予定になっている方は、お車での来院を避けることをお勧めします。